

前口上

ステージレースはそのステージを完走しない限り、翌日がない競走です。ゴールラインを通過してとしても、先頭から指定パーセント以上遅れてゴールした選手は失格となる競走です。総合優勝を争う選手は毎日毎日全力を出し続けなければならない競走です。では全員全ステージ全力かと訊かれたら、否です。

自チームエースを先頭集団に送り込んだアシストマン、山岳ステージのなかのエーススプリンターはエネルギーを節約して走ります。大集団から脱落した第3集団「グルペット」について説明します。

1. 「グルペット」とは

ツール・ド・フランスあたりでステージ優勝を争う先頭、個人総合優勝を争う第2集団、それらあたりからはるか10分以上遅れて通過する第3集団、第4集団があります。個人総合優勝にも縁がなく、その日のステージ優勝にも縁がない集団です。けれども大事な集団です。

2. グルペットの走行環境は

共通機材車、各チームのチームカーはエースのために先頭集団、大集団を追走します。グルペットはコミッセル3と共通機材車がサポートしている例が多いです。医師が乗ったドクターカーは事故の可能性を心配して大集団を追走しています。ドクターカーはグルペット集団をサポートしていません。最後尾の選手収容車に救護車両が追走していますが、グルペットからははるか後方です。

2days race in 木祖村ではグルペットをコミッセル3が共通機材車を兼務してサポートします。ドクターカーは大集団を追走していますので、グルペットの前方です。万が一事故が発生しても、さらに1周回ドクターカーを走行させないと事故現場まで届きません。グルペット集団で事故をするような走行をしないという前提で、成績に関りのある、深刻な事故の発生する危険率の高い集団、ステージ優勝を狙う先頭集団、個人総合優勝を狙う選手居る大集団、この2集団の安全を重視して保障しているからです。

さらにグルペットから脱落した場合、最後尾を受け持つサグワゴン後部に掃除の箒を貼り付けた車がサポートします。

3. グルペットで走ることが許される選手とは

第一に、仕事をしたアシストマンはグルペットの中を走ることができます。エースを含

んだ逃げを決めるために 3 段ロケットのようにスピードを上げ続けた選手、決定的な逃げをエース達が決めてしまえば、アシストマンはがつがつ走る必要もなくなります。賞金もスプリント賞も獲得可能な位置ではなくなるからです。けれどもアシストマンの犠牲の上で逃げを決めたエースが賞金を獲得するでしょう。当然アシストマンにも応分な報酬が約束されているはずですが、そして、明日のステージのために時間内で完走しなければなりません。

2days race in 木祖村でも全く同様です。賞金は監督さんに渡されます。監督さんはチーム内の選手で仕事に応じて賞金を分配することになります。エースのために懸命に走ったアシストマンは、たとえグルペットでゴールしても、正当な報酬を受け取るでしょう。なにもしないで、アシストもしないで、ただ集団にぶら下がっていた選手には全く取り分がないことがふさわしいでしょう。

第二にチップリーニのような純粋なスプリンターが山岳コースをこなすときです。もとよりスプリント総合成績やステージ勝利数にこだわらなければ、個人総合を 10 位くらいで走りきることが可能な (S. ケリーのように) スプリンターもいますが、個人総合 10 位よりもスプリント賞総合のほうが、価値があるでしょう。フラットステージの勝利のために、スプリントポイントのない山岳ステージではエネルギー消費を最小限度にする作戦です。タイムアウトぎりぎりゴールするシーンが見られるのはこのためです。

2days race in 木祖村ではレース前半に平らな区間で、ステージ 1 B で 4 回、ステージ 2 で 5 回スプリント賞を設定し上位 3 選手が得点します。総合得点の最も多い選手がスプリントリーダージャージをレース後着用します。リーダージャージの色は緑色単色。このスプリント賞にねらいを絞って、前半からレースのペースを上げてもらうことで、より厳しい、より安全な競走を意図しております。最後のスプリント周回の後には、スプリントリーダージャージねらいのチームは、グルペット集団で走ることが許されます。

実は、スプリント総合で優勝する方が**個人総合 4 位入賞**よりも賞金が良いです。このジャージを着用している選手又は、計算上新しいポイントリーダーとなる選手とそのチームメイトは、堂々とグルペット集団で走る権利があります。ステージ前半平坦区間でペースを上げてスプリントを繰り返して、試合を作った選手たちだからです。ポイントリーダージャージはゴールラインさえ通過することが出来たら、個人総合 4 位に相当する賞金を手に入れることが出来るエースとアシストマン達だからです。

4. グルペットで走ることが許されない選手とは

残念ながら 堂々とグルペット集団を走ることが出来ない選手も居ます。列挙します。

まず、ステージ優勝にも、スプリント総合にも絡んでいないエースナンバー。各チームは慣例的に 1 番をエースナンバーとしています。個人総合に絡むことがエースナンバーの義務です。最低限度ステージ優勝に絡むことです。これが出来ない状態になると、エースは辛いです。落車して、血みどろ包帯まみれにならないと、冷たい視線から身を守るこ

とは出来ません。

続いて、何もしなかったアシストマン。集団の前でどの選手動いているか、どの様な動きがあるか、これらは全て競技無線（07はさらに無線機材を補強しますので、今年こそ十分な情報が本部まで届くと思います）で本部に連絡されます。本部では当然アナウンサーがこの情報を元にして放送をしています。仕事をしているアシストマンはアナウンサーが何回も言及します。そしてエースが抜け出すことで、評価されます。全く、放送に乗らないまま グルペットの中を走っているとしたら、それなりにヒンヤリとした視線を、本部通過時点でもらえるでしょう。

5. グルペットらしくない走り方とは

やはりこれがいまだ国内にあると思います。グルペット集団後方で先頭交代に加わらないままエネルギーを蓄えて、残り 5km 位に一人でアタックをする選手。「ちっとも追わないから自分は一人で先頭を追いかけたんだ…」?? グルペットから飛び出して50位争いをして価値があるのかないのか分からないのでしょうか。もっとチームがアシストを必要などところで、エネルギーをチームのために使いましょう。

さらには、グルペットなのにゴールスプリントをする選手。「いや、一つでも順位を上げなければ選手ではなくなると考えています」うーん そうなのだけれども・・・ポイント賞もない、ステージ賞金の対象でもないグルペット集団でゴール勝負しても・・・出来るならエネルギー消耗を少なくして安全に走行して欲しいと思います。グルペットの70位争いで落車してもあまり評価しません。71位争いのスプリントで残り少ないエネルギーを消耗して、翌日仕事が出来なくなってしまうならば、あまり役に立つ選手とは言えません。

何故なら、フィニッシュジャッジは、同一集団には同タイムを与えるからです。バラバラとゴールラインを通過した選手に対しても、フィニッシュジャッジは、選手と選手が明らかに、1秒以上離れていない限り、集団先端の選手と同じタイムを与えます。グルペット集団のゴール勝負では、集団で同じタイムが与えられますので、個人総合時間を稼ぐことはできません。

国内のワンデイレースでは、ゴール通過時刻を 1/100 秒までむき出しで公式発表している試合もありますが、これは、フィニッシュジャッジの能力の限界。きちんとした試合ならば、集団ごとに同タイムを与えています。

平たく言うと、グルペット集団になってしまったら、ゴールスプリントをしても、賞金も個人総合時間も関係ないということです。グルペットのゴールスプリントは無駄です。やってははいけません。

6. 正しいグルペットの走り方とは

グルペットの走り方はただ2点 エネルギーの浪費を押さえること、タイムアウトには

ならないこと。

一定ペースで緩く全員で先頭交代を続けてエネルギーの消耗を最初限度で押さえることです。タイムアタックするようなフォームで踏む必要はありません。完走さえ出来ればよいのですから、先頭集団のようなアタック合戦を演じる必要はありません。メイン集団から脱落した選手が前から降ってきても、易しく迎えて 集団の後ろに位置させて、体力が回復した後に、先頭交代に入ってもらいましょう。少しでもたくさんの選手が先頭交代して全体の体力消耗を最小限にする努力をしましょう。登り坂区間でペースを上げるのは、もってのほか。そんなにペースを上げたければ、向かい風平坦区間を長く先頭を引いて、ペースを保持して集団全体のエネルギーを節約してください。

グルペット集団を追走するコミッセル3車両内部には非常用共通ボトルが何本か用意されています。車まで下がればボトルをもらうことができます。ボトルは各チームからの提供ですので、補本数は限られています。また、ゴール手前 20km 以内でボトルを受け取ると、認められない補給として罰金を払うこととなりますが、体に負担を掛けないためにも、必要な場合、車両まで下がって水を受け取りましょう。体調は罰金よりも優先するはずで、食料も集団内部でやりとりして、ハンガーノックを防ぎましょう。

先頭からのタイム差はグルペット集団を管理しているコミッセル3またはモトコミッセルから知らされます。タイムアウトの心配がない限り、のんびりペースで走行できます。但し、一度タイムアウトラインが見えてきた場合、全員で踏みを入れることとなります。タイムアウトラインはステージ難易度、レース平均速度によって異なりますが、ステージ優勝タイムの10～25%遅れあたりがタイムアウトラインです。2days race in 木祖村 2006 では、先頭から12分遅れあたりが危ないラインとしています。先頭の走行時間から計算して、タイムアウトラインが見えてきます。このままのペースでは失格という事態がはっきりしてきたら、生き延びるためには先頭集団以上の速度で走って、タイム差をタイムアウトライン以内に押さえなければならないからです。グルペット集団が先頭集団よりも速い速度で走行する状況です。全員で協力して再びタイムアウトライン以内に納めて無事ゴールを通過しましょう。

7. 正しいグルペットのゴールとは。

やはり有るのですね、正しいグルペットのゴールが…本当です。ゴール勝負なんぞ絶対にしない。ゆったりと上ハンドルを持った姿勢のままゴールラインを通過する。ゼッケンは必ず見えるようにしておく。ちょっと不機嫌そうな振りをする。場合によってはフィニッシュジャッジにゼッケン番号を告げる。ゴールしたらさっさとウィンドブレーカーを着て、自転車でクールダウンを兼ねながら宿に向かう。表彰式が始まっても、チームメイト以外なら無関心にやりすごす。自分がアシストしたチームメイトが表彰対象となった場合だけは、握手をすることが許されます。

8. 正しいグルペットでゴールするためのトレーニング

「そんなトレーニングはない。先頭集団でゴールするためにトレーニングをしているのだ。」その通りですが、その通りではありません。

2006 ステージ1 出走90名ゴール63名。

ステージ2 出走63名ゴール28名。

ダム湖周回のコースで比較的平坦なコースに分類されるコースでありながら、山岳ステージ並みの完走率です。だいぶ物足りない数字です。平坦なコースでありながら、一旦集団から切れてしまった選手は、そのまま一気に遅れてしまったためのようです。どうしたら、集団から切れたとしても、完走できるのでしょうか。詳細は「完走したい!」をご覧ください

後口上

さて、さて、今日だけは、グルペットでゴールラインを横切りましたが、明日はエースと一緒にメイン集団でゴール勝負に加わるかもしれません。場合によっては、つぶれてしまったエースの代わりにステージ成績を期待される立場に回るかもしれません。今日ゴールしないと明日がない競走です。明日になれば、全員に新しいチャンスが与えられているのです。こんなスポーツの形を考え出したフランス人に感謝します。こんなおもしろいスポーツを公道で実顕する機会を与えてくれた木祖村さんに感謝します。